



1 シェムリアップ州病院におけるデイケア活動再開と今後の活動の方向性について

..... 青木勉(SUMH 理事長)

2. カンボジアのコロナウイルスの現状とSUMHカンボジアの活動再開について

..Krouch Vannak(SUMH CAMBODIA 代表)

3. .公的機関における地域精神保健活動の道筋  
カンボジア精神保健関係機関との話し合い

.....青木勉(SUMH 理事長)

.4.総会報告.....青木利江子(SUMH 理事)

編集後記 青木利江子(SUMH 理事)

発行:途上国の精神保健を支えるネットワーク  
Supporters for Mental Health; SUMH

\*\*\*\*\*

1. シェムリアップ州病院でのデイケア活動再開と今後の活動の方向性について  
SUMH 理事長 青木勉

厳しい冬がようやく去って、桜の蕾もほころび始め、鶯が春の訪れを告げておりますが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

大変ご無沙汰しております。はじめに、会員の皆様に、前号の54号を発行してから1年以上が経過をしてしまったことを、深くお詫び申し上げます。この間、理事会ではほぼ毎月現地代表のVannakさんに加わってもらい、話し合いを重ねてきました。

私たち、SUMHがカンボジアのひとびとのために行ってきた地域精神保健活動を公的な活動として継続できるように、州病院に地域精神保健センターを開設して、外来部門、デイケア部門、アウトリーチ部門が、有機的に連携したサービスを継続して行う目標を達成するためです。

2月の理事会では、外来でのSUMHのデイサービスの活動は休止したままでしたが、代わりに電話相談を開始したという報告がありました。センターでのデイサービス活動に参加していた患者を対象として、1日3-4ケースに対して電話での相談をしている。不安症、てんかん、統合失調症、精神病等の診断を受けた、全体で40事例ぐらいに対し、6-20分/ケースの時間を取り、カウンセリングをしている。経済

的問題、DV、子どものメンタルヘルスの問題、薬物療法の副作用などが主であるとのことでした。カンボジアでもリモート診療の需要は高く、ITを活用した精神保健サービスを今後実用化できると良いと思います。

5月の理事会で、再度MoUの申請をVannakさんに依頼しました。MoUとは、カンボジア政府とNPOが取り交わす覚書で、国際NPOとして認定されていることを保証するものです。州保健局での手続きが終わり、保健省での手続き、そしてそれが終了すると外務省との手続きとなり、MoUが発行されカンボジア国内で国際NPOとして活動ができるようになります。SUMHは、MoUが2019年11月で期限切れとなったまま、コロナのパンデミックとなり、2021年3月からパンデミックの拡大に伴って、行政から地域医療活動が禁止され活動休止となって、再取得を逃していたのです。

コロナ禍も4年目に入り困難な状況は続いておりますが、今後のSUMHの活動の方向性としては、当初の予定通りカンボジアシェムリアップ州病院に公的な地域精神保健センターを開設し、SUMHが行ってきたことを現地化することを目標としていきたいと思っております。引き続き、当会のご支援の程よろしく願いいたします。

2. カンボジアのコロナウイルスの現状と SUMH カンボジアの活動再開について

Krouch Vannak (SUMH カンボジア現地代表)

”焼き菓子一袋とジャックフルーツ一個は、COVID-19 ワクチン接種のボランティア行為とともに愛を示す”  
 カンボジア王国保健省の国務長官兼 COVID-19 ワクチン接種全国展開特別委員会(ACC-19)議長であり、保健省のスポークスマンであるオルヴァンディン博士が2023年1月30日にツイッターで以下のように述べた。  
 「クラティ市場で売り子をしている若い女性からの焼き菓子1袋とジャックフルーツ1個のプレゼントは、高価ではありませんが、プライスレスです。1月30日の朝、私に会ったとき、彼女は情熱と愛を表現してくれました。この若い女性、そしてこの市場の売り手の皆さん、私と会うために親しみやすい愛と熱意を注いでくれたこと、そしてサンガット所長とその同僚の皆さんも含め、私の前でCOVID-19 ワクチンを接種してくれたボランティアの皆さんに、深く感謝したいと思います。私たちは、6回目の接種までCOVID-19 ワクチンを接種し、その後は自分の番が来たときに接種し、時間、場所、状況に応じて「3Do と3DoT」を実践して予防措置を継続し、COVID-19 の存在と共存できるようになることによって、COVID-19 の急増を防ぐことができます。来るクメールの新年にあたり、すべての国民が健康で、繁栄し、COVID-19 やその他の病気から解放されることを祈念しています。また、食中毒、特にアルコール、交通事故、薬物中毒などに注意し、安全に過ごせるように祈ります。  
 ありがとうございました。」



2021年2月10日から2023年2月15日までの  
 COVID-19 ワクチン接種状況報告  
 目標人口 1,000 万人(18 歳以上)に対するワクチン接種の進捗率=103.87%。  
 目標人口 1,827,348 人(12 歳~18 歳未満)に対する進捗率=101.29%。  
 目標人口 1,897,382 人(06~12 歳未満)に対するワクチン接種の進捗率=110.71  
 目標の 304,317 人(05 歳)に対するワクチン接種の進捗率=142.22  
 対象人口 610,730 人(03 歳~05 歳未満)に対するワクチン接種の進捗率=81.61%。  
 目標人口 1,600 万人(Grand Total)に対するワクチン接種の進捗率=95.43



ワクチン接種の活動の様子

カンボジアにおける COVID-19 のインパクト  
影響は家計に最も顕著に現れました。人々は収入を失い、雇用を失い、新たなローンが増えました。

COVID-19 の期間中、ほとんどのビジネスが閉鎖され、そのうちのいくつかは倒産しました。公立学校は閉鎖され、学生はオンラインで勉強することを余儀なくされましたが、問題は農村部の学生についてでした。中流以下の家庭や貧困家庭にとっては、生き残るために非常に悪い状況でした。彼らは不況の下で生きていました(食べ物、医療サービスは不足し、人々は互いへの恐怖をいただいていたのです。)Covid-19 が蔓延している間、彼らは制限のために法律に直面しなければならなかったのです。家族のためにお金と食べ物が必要でした。政府からの支援は限られていた。それは2020年から2022年までのことでした。人々はCovid-19に大変苦しんでいました。



メンタルヘルスセンターでの活動の様子

SUMH-カンボジアの活動再開について  
SUMH の精神保健センターの活動によく参加して下さっていた患者さんがいましたが、Covid-19 の蔓延のため、私たちの活動は長期に渡り閉鎖していました。政府からの通達で閉鎖せざるを得なくなったのです。精神保健センターでは、「統合失調症、うつ病、てんかん、不安神経症、精神遅滞とは何か」というテーマで心理教育を行っています。また、作業療法や日常生活の補助、社会的交流について、患者やその家族をサポートするためのトピックも追加しています。

SUMH-カンボジア  
カンボジア保健省を通じてカンボジア政府から許可を受け、活動を再開しました。シムリアップ保健局、シムリアップ紹介病院と密接に連携しています。診療は月曜日から金曜日まで行っています。ほとんどの患者さんとそのご家族は、勤務時間中にドクターに会いに来られます。精神科医の診察を受けるまでの待ち時間に、私たちのセンターの活動に参加してもらうようにしています。

特に SUMH メンタルヘルスセンターのメンタルヘルス教育について、次のような感想を述べています。「教育や情報共有ができるのはとても嬉しい。」「話を聞いたり、質問したりする時間が十分にあり、グループカウンセリングや個人カウンセリングもあります。家族のケアについて、お互いの経験を共有できる。」「先生に直接相談する勇気がないときがあります。精神保健福祉センターの活動を通して、私たちは多くのことを学ぶことができました。」患者さんは、「SUMH は活動を続けてほしい」とおっしゃっていました。



インタビューする Krouch Vannak 氏

3.公的機関における地域精神保健活動の道筋  
カンボジア精神保健関係機関との話し合い  
青木勉(SUMH 理事長)

地域精神保健活動をシュムリアップ州立病院に、地域精神保健センターを作り、そこを拠点として訪問、デイケアなど、公的な地域精神保健活動を進めていく。現在SUMHが現地と共に目指している活動です。

第1回 シュムリアップ州立病院、州保健局との話し合い

オンラインでの話し合いは、通常現地に行かないとできなかった現地の関係機関との直接の話し合いに繋がっています。1回目の話し合いは、シュムリアップ州立病院精神科外来責任者 Dr. Savannara、州保健局のスタッフ、SUMHカンボジアスタッフ、SUMH理事で行われました。これまでのSUMHの活動の経緯、地域精神保健センターの構築と役割について、青木理事長から説明をしました。州立病院、州保健局ともに、SUMHのこれまでの活動への理解、地域精神保健センターの設立と役割への賛同も得られました。ただその役割を州立病院、州保健局が担うのは、現段階ではマンパワーが不足しているとのことでした。

第2回 シュムリアップ州立病院、州保健局との話し合い

2回目の話し合いは、シュムリアップ州病院長Dr. Pen、州保健局長 Dr. Kros Sarath、SUMHカンボジアスタッフ、SUMH日本側理事で話されました。今回参加の州保健局長からも、SUMHの活動の意義、地域精神保健センターの設立と役割への賛同も得られました。地域精神保健センター活動を進めて行くスタッフを新規雇用し、公務員として雇用する方針に対しても賛同を得られました。日本側からJICAパートナーシップ型についての説明にも賛同が得られました。JICAパートナーシップ型について、JICA側との話し合いは2回行われ、SUMHの活動に対する評価、今後の方針について資料作成をしていましたが、準備期間が短かったこと、予算規模等草の根支援型に該当する旨のお話もあり、次年度の草の根支援型を検討することになりました。

4.総会報告  
青木利江子(SUMH 理事)

総会参加人数  
参加者 青木勉理事長、窪田彰理事、野崎章子理事、松尾智美、大参事務局、青木利江子理事

- 委任状 10名
- 合計16名
- 正会員 39名 総会成立
- 議長 窪田彰
- 書記 青木利江子
- 議事
- 1事業報告
- 現地と定期的連絡会、理事会に現地スタッフリモート参加、Covid19のため現在は現地活動停止中。
- 精神科デイケア活動 シュムリアップ州の精神障害者 1,763名 227日/年
- 家庭訪問シュムリアップ州の精神障害者 33名 24回/年
- 関係機関との各種会議(シュムリアップ精神保健関係者会議、州病院精神科 外来会議等) 24回/年
- 2.2022年事業会計収支報計算書 寄付金収入が減少、会費収入をより働きかけていく
- 総会連絡後、会費納入が何人かあった。
- 3.2022年会計貸借対照表
- 4.2022年会計財産目録
- 5.2023年活動計画
- 地域精神保健センターの設立を目指す。認定NPOを目指す。SUMH活動報告冊子。
- 6.事業予算書 地域精神保健ガイドライン、支出、シュムリアップ州に引き継ぐ方向性で進める。承認
- 7.2022年役員理事紹介
- 8.理事長挨拶
- \*\*\*\*\*

編集後記

現在毎月の理事会は現地代表VANNAKさんと一緒に行き、互いに情報を共有し討議しています。遠方にながら顔の見える、お互いの思いや考えを共有することの大切さを痛感しています。通訳としてヨーロッパより青木桃太郎さんが通訳ボランティアとして参加し、現地のシュムリアップ保健省、州立病院との交渉、スタッフとの話し合い、複雑な交渉や討議が行われました。公的活動への移譲の道のりはまだ少し時間がかかりそうですが、現地のニーズに添い、地域精神保健活動を現地の公的活動にして行く道筋を現地との話し合いを重ねる中で目指していければと考えます。新型コロナの世界における収束にはまだ時間を要するのかもしれませんが、こうした状況の中でも、あきらめることなく、未来にある光を信じて、少しずつ歩んで行ければと思います。今後とも宜しくお願いいたします。

(青木利江子)